

平成25年度 学校評価

学 校 名	兵庫県立千種高等学校
-------	------------

1 学校教育目標

全生徒が連携型中高一貫教育校への改編後の入学生となり、夢を形にする進路指導の充実をはじめ、全生徒・保護者の本校に対する満足度をこれまで以上に高められる特色ある教育の展開に努める。

2 重点目標

- ①地域・保護者に期待され、信頼される魅力ある学校づくりを推進する。
- ②千種中学校区幼少連携・小中一貫推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する。
- ③確かな学力・豊かな人間性をそなえ、進路実現に向けて努力する生徒を育成する。
- ④体育的諸活動を通して心身を錬磨し、将来の社会生活で逞しく生きる体力・精神力を養う。
- ⑤教職員は生徒に夢と自信を与えられるよう、資質能力の向上に努める。

4 自己評価の実施方法についての学校関係者評価

生徒、保護者、連携中学校の生徒にアンケートを実施し、その結果を踏まえた上で、自己評価していることは評価できる。また評価を点数化しているのは分かりやすい。

5 総合的な学校関係者評価

自己評価、今後の改善策は概ね適切である。特に下記の改善策は実践されることを期待したい。ただし、あいさつも含め何事も、生徒が教員に「やらされている」と感じさせてはいけない。その意義を理解して初めて、自発的な言動や行動につながる。教員の生徒に対する接し方、指導の仕方が問われてくる。改善策がどれほど適切であっても、教員自身の内面に魅力がなければ効果がない。教員に求められるものは大きい。本校存続のため、地域へ足を運ぶ努力もしてほしい。連携型中高一貫教育校に改編され、4年が経過した。これまでを定着期と位置づけ、学力向上を軸として、部活動や生活指導などこれまで以上に連携教育の発展・充実を目指して中高で連携を図り、各種の取組や活動を推進して欲しい。そのための実践目標や実践項目が来年度は盛り込まれることを期待する。

3 自己評価結果（5段階評価：「5」が良くできている、「1」はできていない）

	実践目標	実践項目	25年度 評価	昨年	一昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
1	地域に理解された「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	ホームページの充実・改善を図り、学校の様子を随時発信する。	4.5	4.5	4.6	ホームページのリニューアルと積極的な更新によりアクセス数は増えた。部活の様子をもっと充実させる必要がある。PR動画を作成しHPにUPすることも考えられる。HP以外にもしーたん放送やラジオ・テレビなどを活用して情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進む本校周辺地域では、ネットの活用状況は必ずしも高くないことが考えられる。更に地域に理解される学校を目指すには、宍粟市の広報紙やしーたん放送（有線放送）、ラジオ・テレビなどのマスメディアを活用することも重要である。 ・早急にホームページのブログにコメントが記入できるようにして欲しい。 ・行事の案内ポスターや千高便りの配布を生徒にさせてはどうか。
		学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	4.1	4.1	4.1	文化祭、連携マラソン大会は多数の来賓、応援があり、地域の本校に対する関心は高い。地域連携防災訓練を継続する。行事ごとに来校者にアンケートを依頼する。本校が地域交流の場となる工夫を模索していく。公開授業週間を実施した。	
		生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	4.4	4.2	4.8	生徒が地域と関わる機会は昨年度以上に増えているが、教職員の意識の向上が課題。秋のふれあいフェスタに参加する。	
		千種中学校区の児童・生徒との交流を深め、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	4.2	3.8	4.1	体育と理科に加えて、英語、社会でも行った。その他の教科も、働きかけの機会を中学校のみならず、小学校に対しても増やしていく。部活動の連携も重要。	
2	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な姿勢を育成する。	挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が登校時や校舎内で自発的に挨拶することをさらに定着させる。授業の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れて挨拶をするクラスもある。家庭との連携を強める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を促す。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をあげてさらなる啓発が必要である。 ・「生徒の発表の機会を増やす」とあるのは必要なことであり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・部活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考えることができればよい。 ・部活動の兼部を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球を軟式にすると中高連携できるのでは。
		インプロ学習・教科学習を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、就業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
		地域貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	4.1	4.3	4.3	生徒が自主的に考え、行動する体験的活動にするとともに、事後に生徒同士が感想等を発表し合う機会を設ける。	
		部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.9	3.6	4.1	部活動が低調になりつつある。生徒数を考慮し、部活動の数を直視するか、外部コーチの導入の可能性について検討する必要がある。放課後の会議の数を減らす。補習とのバランスをとることが必要。全教員によるサポートが必要。	
		LHRや面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.9	3.7	3.8	生徒がどのような人生を歩みたいか、そのために必要な知識・技能は何かを考えさせ、一人ひとりに寄り添い、具体的かつ詳細に指導していく努力を怠らないよう努める。	

	実践目標	実践項目	25年度 評価	昨年	一昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
#	生徒の興味・関心に応じた教育活動を展開し、「分かる授業」をするために、学習指導の工夫・改善に努める。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善がなされている。	4.0	3.7	3.4	教科の内容を充実させるために、わかる授業のあり方について多方面から考察していく。持ち時間の偏りをなくす。英語の小中高の研究会を他教科でも実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学力向上を目指した、実のある小・中・高の連携が課題である。 今年度「公開授業週間」を実施した。他教科の授業を参観し意見交換を行い授業改善を進める取り組みを継続させることが大切だ。 「千種学」を実施する場合は、地域の人材等を活用して小・中での学びと連携させて欲しい。協力者は多いはずである。 商店街の空き店舗で、月1回でも高校生が企画運営して何かできないか。
#		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	3.7	2.9	2.7	学期毎に授業公開週間、研究授業を実施し、実施後に意見交換する機会を義務づける。	
#		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.7	4.0	3.9	千種中学校が実施する「千種学」を参考に、これまでの固定化された内容に留まらず新たな分野を開拓し、新たな特色づくりに取り組む。	
#	適切な学習指導と家庭学習の習慣化を図り、個々の生徒の進路実現を支援する。	生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	4.3	4.0	4.1	ベーシック、アクティブコースの授業では授業者のみならず、生徒のそばで授業理解を支援する補助教員のさらなる確保が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を習慣化できない生徒が多くいることについては、小中学生に配布されている「家庭学習の手引」の高校版を作成し、家庭学習調査も実施する。 進路選択では「3年間を見通した計画的な指導体制」のもと、生徒と保護者、担任と面談を数多く実行してもらいたい。
#		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	3.5	3.1	3.1	連携一貫の取り組みの「家庭学習の手引き」「家庭学習調査」を取り入れる。週末課題等の実施点検や、家庭学習の習慣化を図る。	
#		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	4.4	4.0	4.0	自己の将来のために基礎学力や資格がいかに必要であるかということを理解させ、やらされるのではなく、自ら進んで取り組む意識を高揚させる。	
#		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	4.0	3.4	4.0	全家庭を家庭訪問する他、夏季休業中の面談以外にも担任と保護者が面談する機会を増やす。3年間を見通した計画的な指導体制を確立する。	
#		生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	4.1	3.8	4.2	進路指導部と学年との連携を密にして進路LHRの年間計画を策定し、実施する。また進路検討会（進学・就職）の機会を増やす。	
#	互いを認め合う望ましい人間関係を築き、安心・安全な学校環境を構築する。	マナーや規律、規範意識を高める取組を、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.9	4.0	3.9	あくまでも全教職員の共通理解のもと、全教職員で指導する。その中で、情報モラル向上の取り組みでは生徒会が活躍し効果を挙げた。校則違反、意図的な器物破損を繰り返す生徒はほぼ皆無となった。人権ホームルームも活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出ても通用するような人間関係を生徒が高校時代に築けるよう教員は支援してほしい。 携帯電話、スマートフォンの使用に伴うトラブルである。その危険性について、関係機関と連携し、定期的に意識付けをするべきである。今年度生徒会も巻き込んで情報モラルの向上に取り組んだことは大いに評価できる。 「カウンセリングを1学年の全生徒に体験させる」とあるが、これは是非継続してもらいたい。ただし、カウンセリングを受けた生徒を個々に特定できない配慮をお願いしたい。 防災教育、安全教育は学校内のみで取り組む問題ではなく、今年度のような地域と連携した取り組みを継続して欲しい。 幼児虐待の事件が起きている。育児体験等取り入れて命の授業も大切である。
#		生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	4.0	3.8	3.8	ホームルーム選出の委員に活動の場をこれまで以上に与える。部活動の全入をさらに進める。	
#		生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	4.0	4.1	3.8	1・2学期の個人面談を定期化する。効果的な声かけ、思いが伝わる声かけの在り方について、研修を行う。	
#		防災教育や安全教育を、学校全体はもとよりホームルームで行う。	4.3	3.8	3.7	ホームルーム計画作成時に防災教育の計画を盛り込む。全教員が防災、安全教育を意識して指導する。地域連携防災訓練を継続して実施する。	
#		人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。	3.7	3.9	3.7	学期ごとに生徒参加型の人権LHRを充実させる。分かりやすい人権講演会を実施する。	
#		教育活動全般に通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	4.4	3.6	3.6	生徒会中心の情報モラル向上の取り組みを継続していく。他者の人権侵害をゼロにする。生徒の生活改善や家庭学習の充実にもつなげる取り組みを進める。	
#		キャンパスカウンセラーと連携を密に取り、悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	4.3	3.8	4.3	カウンセラーの指導内容を必要部署にて共有する。生徒が相談しやすい環境づくりの一環として、今後も年度当初にカウンセリングを1学年全生徒に体験させる。	